

住民自治協議会だより

第5号

発行：小田切地区住民自治協議会 自治協だより編集委員会

「元気な小田切へ一歩前進しました」

小田切地区住民自治協議会

会長 酒井 昌之

「都市内分権」に基づき発足した当住民自治協議会は満2歳となりました。

この一年間を振り返り、主な活動についてご報告したいと存じます。

まず第1は、「元気なまちづくり市民会議」の開催であります。市長さんを始め関係部・局長が参加して地域住民と対話集会を行ったものですが、自治協として①防災対策②交通網の整備③下水道問題④幹線道路の早期改良⑤小田切園の後利活用などについて要望を行いました。

第2は福祉・健康部会の福祉委員会による地域福祉活動計画の策定です。この福祉活動計画は住民アンケートに基づき集大成されたもので、地域住民の切実な問題が浮き彫りされており、今後の活動指針として実践が期待されます。

第3は環境・地域活性化部会の遊休農地活性化委員会による耕作放棄地復旧作業と長野青年会議所と協働した「第1期信州里山塾」の実践であります。

前者は小野平地籍の10aの耕作放棄地をわらび園にしたもの。後者は親子20組50人による農作業体験。いずれもマスコミの注目を集め“小田切”をアピールできました。

第4は教育・文化部会の公民館および地公連による市民運動会、球技大会、文化芸能祭などのイベント開催であります。老いも若きも一堂に会し、交流を深めたことは明日への活力の源となり“小田切を元気に!!”という実践になりました。

第5は、福祉自動車の運行です。高齢化が進み、高齢者が通院に不安をもっている昨今、この福祉自動車は“希望の星”になっています。協力員の皆様も増え、さらに充実させたいと考えています。

私は就任あいさつで“魂を入れる年”と申し上げましたが、皆様のご協力により一体感も出て、元気な小田切へ一歩前進しました。役員の皆様をはじめ地域の皆様のご支援ご協力に心から感謝申し上げます。

本年度も心をひとつに全員参加で小田切を元気にして参りましょう。



平成23年度役員（敬称略）

役職名	氏名
会長	酒井 昌之
副会長	松本 良一
	宮尾 正明
	海沼 一夫
会計	岡澤 芳文
総務・安全防災部会長	酒井 昌之
総務・安全防災副部会長	奥原 保男
	山上 健一
福祉・健康部会長	松本 良一
福祉・健康副部会長	(竹内 弘司)
環境・地域活性化部会長	宮尾 正明
環境・地域活性化副部会長	竹内 重雄
教育・文化部会長	海沼 一夫
教育・文化副部会長	(斉藤 裕)
監事	(上野 修)
監事	宮澤 弘

(注) ()内 平成23年4月15日改選役員

各部会の様子

ここではそれぞれの部会長さんより主な事業についてのお知らせです。

住みよい地域づくりにがんばります。

総務・安全防災部会長 酒井 昌之

総務・安全防災部会は、7回の部会役員会を開催し運営にあたって参りました。

主な活動をご報告します。

22年度は7月11日投票が行われた第22回参議院通常選挙において、投票支援タクシーを運行し16名の利用をいただきました。また、8月8日の長野県知事選挙では10名の利用をいただき感謝されました。

防災関係では、小田切分団が10月に教養訓練を行ったのに続き、年末には恒例の年末特別警戒を行い地域住民の安全と安心に寄与していただきました。

地域の活性化については、中山間地域活性化対策会議が8月23日、小田切、芋井、浅川、七二会、信更の5地区の役員・支所長の参加のもとに行われ、市長に対し、「地域いきいき運営交付金」の増額、除雪、道路の整備等基本的な問題について要望をして参りました。この間、2カ月に1度住民自治協連絡会が開かれ、活動の交流が図られました。

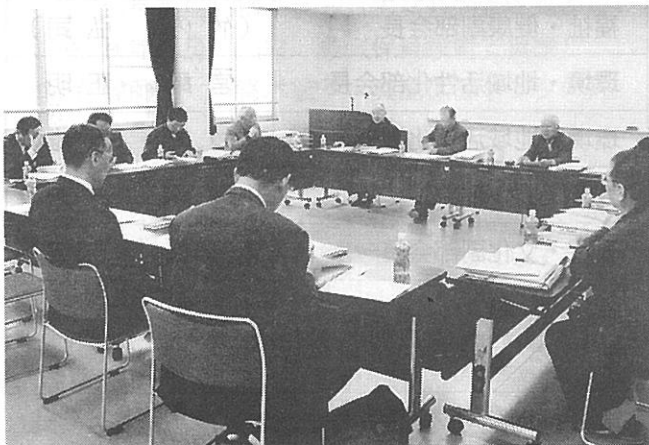
道路関係では、国道406号（西長野加茂小から茂菅間）の改良、国道19号の両郡橋の改良についても陳情し、両郡橋については一部改良工事がなされました。

小田切における基幹道路である県道小川・長野線、県道入山・小市線につきましては、それぞれの愛護会・整備期成同盟会が活発に運動を展開し、改良工事に大きな役割を果たされました。

この他、区長会は月一回定期区長会を開き行政との窓口としてパイプ役を果たしました。

住民自治協と地域住民を結ぶ“自治協だより”は2回発行いたしました。

本年度は3年目を迎えます。小田切に住んで良かった!!と言われるような地域にして行くためにがんばりたいと思います。ご支援ご協力をお願いいたします。



福祉健康部会の一年を振り返って

福祉・健康部会長 松本 良一

福祉・健康部会では、賀寿記念祝婚祝賀会及び、ひとり暮らしの高齢者の集い等を始め、多くの参加者により研修会や事業が行なわれました。

大きな動きとしては、社会福祉協議会が解散し、福祉委員会となり各区毎に委員を選任し、地域に見合った福祉活動をするため立ち上がりました。

活動計画は、福祉活動計画策定委員会により、平成20年度より多くの会議を開催し、議論を重ね福祉活動計画がまとまり、住民自治協へ提言を行ないました。この計画により、各部会で推進していくこととなります。

委員の改選では、民生児童委員が11月末を持って改選となり、5地区で新委員が選任され、小田切地域のために活躍される事になり又、保健補導員も3月末で改選となりました。退任されましたそれぞれの委員の皆様には、長い間大変ご苦労様でした。



ペットボトルのキャップを贈呈

3月16日、小田切地区住民自治協議会では加茂小学校にペットボトルのキャップ約2,200個を贈呈しました。日本では簡単に手に入るワクチンですが、世界にはそれが無いために命を落とす子どもたちが、1日に約6,000人もいます。

キャップの再資源化で得た利益で世界の子どもたちにはポリオやはしかのワクチンを贈ることができます。

住自協（支所）では引き続きペットボトルのキャップを集めていますので、皆様の御協力をお願いします。

ワクチン名	1人分単価
ポリオ	約 20円
MMR（ポリオ・おたふく風邪）	約114円
BCG	約 7円
はしか	約 95円

（ペットボトルのキャップ1kg（400個）で10円）

平成23年度小田切地区住民自治協議会予算書

(一般会計) 抜粋

(収入) 主なもの

〈いきいき運営交付金〉	3,541千円
〈補助金〉	
・道路愛護補助金	77千円
・地域福祉推進事業関係	753千円
・福祉のまちづくり実践事業	182千円
・わくわく体験補助金	84千円
・自治活動保険料助成金他	179千円
〈地区負担金〉	
・区長会負担金	131千円 (300円/戸)
・福祉事業負担金	612千円 (1,200円 //)
・環美連負担金	44千円 (100円 //)
・子ども育成負担金	87千円 (200円 //)
・地公連負担金	339千円 (均等割・世帯割)
〈その他〉	371千円 (繰越金・雑入等)
合 計	6,400千円

(支出) 主なもの

〈総務・安全防災部会〉	
・区長会事業費	566千円
・交通安全推進事業費	115千円
・その他	155千円
〈福祉・健康部会〉	
・地域福祉推進事業費	1,238千円
(市厚生課補助事業・福祉自動車特会への繰出金含む)	
・福祉委員会事業費	786千円
おしゃべりサロン・喜寿祝賀会、団体補助 一人暮らし老人の集い他	
・保健補導員会事業費	220千円
〈環境・地域活性化部会〉	
・環美連事業費	219千円
・有害鳥獣対策事業費	185千円
・遊休農地活性化対策	104千円
〈教育・文化部会〉	
・人権同促協事業費	215千円
・青少年子ども育成事業費	230千円
・公民館連絡協議会事業費	1,095千円
〈事務局費〉	1,102千円
〈予備費〉	170千円
合 計	6,400千円

(福祉自動車特別会計)

(収入)

1,080千円 (内住自協からの繰入金 470千円)

(支出)

293千円 (事務費関係)

420千円 (車輛管理費)

300千円 (燃料費)

67千円 (予備費)

(やまざと支援交付金事業特別会計)

(収入)

600千円 (やまざと支援交付金)

(支出)

600千円 (報償費)

(内生活道路管理331千円・福祉自動車運
転活動費206千円・信州里山塾関係63千円)



ひ と 言

太平洋戦争が終結し、占領地政策のため日本に上陸した何万人にも及んだ占領軍のアメリカ人兵士達。

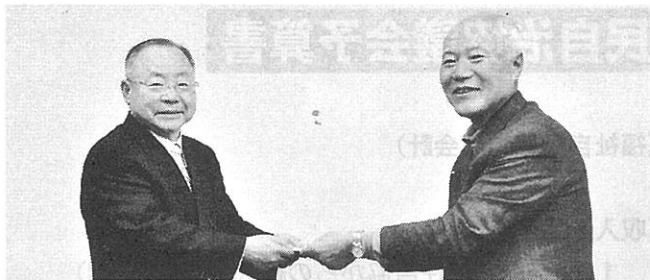
彼らは日本各地に出掛けて、占領政策の末端の仕事に勤しんだ。

そこで兵士達が見たものは、のどかな農村で働くくつたくな人達の笑顔だった。日本という国が、どう
いう人達で成り立っているかを理解したのである。

勤勉な人々が創り上げてきた「素朴な農村文化」こそがアメリカが日本を信頼しうる国として認めた最大の理由だったのではないか。

終戦から65年が過ぎた今、市街地に人々は移住し、「文化的な生活」に慣れ親しんでいる。

しかし、戦後の高度経済成長以降、都会に人や物をもくもくと供給してきた「素朴な農村」がこれからもその供給を続けられる保証は今日立っていない。



地域福祉活動計画の策定を終えて

策定委員長 山上 健一

「誰でも自分らしく そして 共に支えあえる地域づくり」をめざし平成21年9月に要綱が承認され、研究と議論を重ね、このほど小田切地区地域福祉活動計画の完結をみました。

福祉計画策定委員会は21名の委員と協力員、事務局の総勢24名で構成され、2年7ヶ月延21回の検討会を重ねてきました。

平成22年3月には地区内18才以上と全世帯主を対象としてアンケート調査を実施しそれぞれ879件、398件の回答をいただきました。

調査の内容を分析したところ地域助け合い、災害弱者の支援、お茶のみサロンの充実等種々の要望がありましたが、福祉だけという狭義でなく幅広い年次計画となっています。

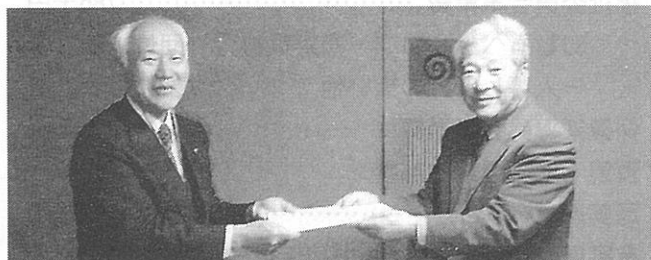
又、アンケート調査で個々人の回答には多様性と温度差の違いはありますが、何らかのボランティアを介して地域の為に協力できると答えて頂いた人は実に60%もありました。

この結果に福祉活動を進めるに当たり大変意を強くしたところです。

3月24日に酒井住民自治協議会長に完成した計画書を提出し、この提言を以って23年度より積極的に取り組みをお願い致しました。

同時に福祉活動計画策定委員会の作業終結といたしました。

益々高齢化、独居化する中1人でも置き忘れのない小田切地区形成のため、僅かな善意で隣人同士を支え合える地域創りを目指そうではありませんか。



竹内重雄さんより御寄附

長野県教育委員会による平成22年度教育関係功労者表彰が昨年11月16日県庁会議室において行なわれました。席上小田切地区無及平の竹内重雄さんが、永年にわたり長野県綱引連盟理事長を務められた功績により「社会体育功労者表彰」を受賞されました。

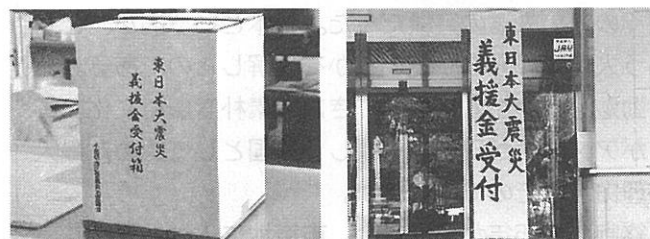
竹内さんは「受賞したのは小田切地区皆様の御協力があったからこそ」と言われ、自治協に5万円の御寄附をいただきました。大切にに使わせていただきたいと思います。ありがとうございました。



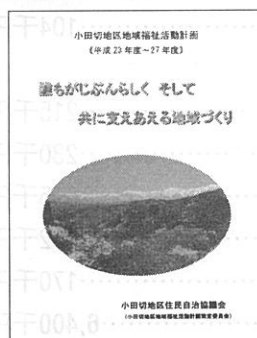
錬成センターより御寄附

さる3月6日開催の小田切地区文化芸能祭の折に、公民館入口の広場でうどんの販売をしていただいた錬成センターさんより、売上金の一部として1万円の御寄附をいただきました。自治協の会計に入金させていただき有効に使わせていただきたいと思います。ありがとうございました。

震災義援金箱を設置



東北・東日本を襲った大地震と津波による被災者の皆様へと、住民自治協議会で義援金箱を支所のカウンターに3月18日より設置いたしております。これまでに8万9千円余の寄附が寄せられました。今後も皆様からの善意をお待ちしております。



部会活動の一年

環境・地域活性化部会長

宮尾 正明

1. 環境美化活動

健康で文化的な生活環境を創るため、春と秋の2回「ゴミゼロ運動の日」に呼応して、各家庭での大掃除および区民の参加を得て、区内の道路、河川、公共場所の一斉清掃の推進を図りました。また一年を通し、ごみ集積所の安全管理・整理・整頓・清掃に努めました。

2. 有害鳥獣対策

野生鳥獣による被害が重大であります。農産物の生産意欲を減退させ、ひいては耕作放棄地の増加につながります。電気柵・くくり罠等の活用を推進し耕作放棄地の防止に努めました。

3. 遊休農地の活用

昨春、遊休農地を借り、あくなしワラビ苗の圃場を移転拡大しました。

適切な肥培管理で良く生育しています。来年辺りから希望者に販売できるのではないかと期待しています。

また、信州里山塾による子ども達の農業体験学習で、水稻、馬鈴薯、大根等を栽培しました。

4. 観光と行事

昨年6月千木区で、宴遊会が開催され、小田切八景の三かまど神社（千木）と戸谷神社（栃ノ木）の歴史について学びました。

今後も小田切八景等を活用した取り組みを継続して地区内外にPRし、地域活性化に生かしたいと思えます。



22年度活動報告

教育・文化部会長

海沼 一夫

住民自治協議会が本格的にスタートをした昨年度、教育・文化部会も活動方針に基づき多くの事業を実施してまいりました。当部会の事業は特別に新しいものはありませんが、計画した事業に一人でも多くの方がご参加をいただき、実りある事業になる様、関係団体と連携・協調を図りながら推進してまいりました。主な活動内容は次のとおりです。

〔青少年子ども育成協議会〕

6月13日に水内鎮神社への親子遠足、9月5日に田中の休耕田で魚釣り大会、10月31日にきのご狩りとおやきづくりを錬成センター分館で実施しました。

地区内の子どもが、減少の一途を辿る中ではありますが、地区外からの参加者も多く、世代間交流や子ども達の交流も深まりました。

〔人権同和教育促進協議会〕

11月10日に「人権を考える住民の集い」を開催し、「男女共同参画における人権の尊重」というテーマで、講師に長野市男女共同参画推進課の柏原先生をお招きし、講演をいただきました。

また、各区毎に人権同和教育講座を開催していただき、人権啓発活動を推進いたしました。

〔地域公民館連絡協議会〕

体育事業の野球大会は、グラウンドコンディション不良により中止となりましたが、10月17日に市民運動会を、12月5日に球技大会を開催いたしました。市民運動会は、総勢370人余名が参加し、小田切地区最大の行事となりました。

2年に1度の文化芸能祭を3月16日に開催しました。文化活動発表の場は盛会で、毎年開催してほしいという声も聞かれました。

教育・文化部会の事業にご支援ご協力をいただきありがとうございました。感謝を申し上げ、一年間の活動報告といたします。



一年を振り返って

地域活性化推進員 島田 正一

昨年4月、小田切地区担当の地域活性化推進員として、小田切支所に配置され、早1年を迎えます。

当初何をしたらいいのか非常に悩みました。まず、地域の現状を知る事が必要と、区長さんをお願いして昨年度作成した集落点検マップの更新をしました。

集落点検や不法投棄パトロールの際、地域の皆様には地区のいろいろなお話を聞かせていただき、また、住民自治協議会関係の各種会議に出席し、情報の共有化を図り、地域福祉活動計画策定委員会へは策定委員として参加させていただきました。

やまざと支援交付金事業は、区長会の協力のもとに地区毎の広域活動、運転協力員による福祉自動車の運転業務、遊休農地活性化委員会による信州里山塾の支援活動を行いました。

この信州里山塾の事業では、参加者と地域の交流を通して、中山間地域の状況を理解してもらう事が、将来の中山間地域の活性化に繋がっていくのではと感じております。

小田切公民館を中心に、地域の文化活動が盛んであり、各種行事にはみなさんが地区毎にまとまり、大勢が参加して楽しんでおられ、びっくりしました。

今後小田切地区のため、できる事から取り組んでいきたいと考えていますので、宜しくお願いします。

4月の人事異動

4月1日付で定期の人事異動により次の方々が出、転入されました。(敬称略)

(転出)

(支所長補佐) 木内徳夫 (退職)

(公民館係長) 佐藤重光 (市立長野高校)

(保健師) 清水由佳 (北部保健センター)

(転入)

(支所長補佐) 横田英一 (男女共同参画推進課)

(公民館係長) 山口 敦 (保育家庭支援課)

(保健師) 青木綾子 (真島保健センター)

異動のごあいさつ

支所長補佐 横田 英一

この度、小田切支所長補佐として赴任してまいりました横田と申します。

前任は、生活部男女共同参画推進課です。

微力ではありますが、小田切地区の皆様のお役に立てよう頑張りますので、御指導をお願い申し上げます。

5年間お世話になりました

保健師 清水 由佳

「大好きな小田切地区の健康を守りたい」そんな想いを持ちながら、自治協議会(保健補導員会)のみなさんと歩んできました。どうやったら地区をより元気にできるのかを話し合い、試行錯誤をしながら多くの事業に取り組んでまいりました。

その中の一つ、毎年恒例となっている「地区健康相談会」について書きたいと思います。

22年度は保健補導員さんの声かけにより、15会場約160名(小田切人口の約13%)の皆さんにご参加いただきました。会の内容は、保健師による健康相談、講話もありますが、その中で何より大切なのが「参加された皆さんでの情報交換」です。お互いの元気を共に喜び、自身や家族の健康について考え、学ぶ時間は、参加された皆さんの体の健康だけでなく、心の健康づくりにも役立っているのではないかと考えています。

人は生きている限り、時と共に老いていきます。体力も衰え、病を抱えることも多いでしょう。しかし、心の元気は維持することが可能です。皆で集い、声を掛け合い、励ましあい、支えあう。そんな素晴らしい習慣を今後も是非継続し、いつまでも笑い声の響く小田切であってほしいと心から願っています。

保健師 青木 綾子

はじめまして、4月から小田切支所に保健師としてまいりました青木綾子です。小田切の方が健康でいられるようお手伝いができればと思っています。よろしく申し上げます。

まずは、私の自己紹介ですが…年齢はお会いしたときの想像にお任せします。住まいは安茂里、家族は4人(夫と娘2人)です。趣味はテニスです。皆さんとお話ができるのを楽しみにしています。

編集後記

3月11日発生した東日本大震災は未曾有の被害を与えました。被災者の皆様に心からお見舞い申し上げますとともに亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

今回の大震災は原子力発電の危険性を浮彫りにし、エネルギー政策のあり方に転換を迫っています。この先日本人は目に見えない放射線におびやかされて生きていかねばなりません。国の総力を挙げた対策が望まれます。